九州の街特集

観光資源でコンベンション誘致

長崎県佐世保市は豊富な観光資源とインフラを背景とした「MICE」誘致に力を入れている。MICEとは会議、報奨旅行、国際会議、展示会を表す英語の頭文字を取ったもの。佐世保ではこれまで企業や経済団体、学術団体など国内外の主催者によるシンポジウムやフォーラムの実績がある。2012年の秋も、約37万人の来場を見込む「第10回全国和牛能力共進会」をはじめとする、大型イベントが予定されている。

コンベンション開催には施設や交通のインフラはもちろん、全国や海外からの来場者が会議後に訪れる観光資源も重要な要素になる。佐世保はそれらの要素が整うだけでなく、豊富なメニューを提供できる都市として主催者を待っている。

ハウステンボスで会議が可能（ユトレヒトプラザ）

ニーズかなう豊富な施設

主催者にとってまず重要なのは、多様な会議場が用意されていること。その点で佐世保には機能と立地両面でバリエーション豊かな施設がある。

「アルカスSASEBO」は長崎県内最大のコンベンション施設。しかもJR佐世保駅から徒歩3分の好立地にある。大ホールは客席2000席で400インチのスクリーンを備える。中ホールは500席、イベントホールは350席を備えるほかパーティーが可能。大小サイズの会議室もあり、分科会を行う大規模シンポジウムに対応する。

テーマパークのイメージが強いハウステンボスにも、場内にコンベンション施設がある。「ユトレヒトプラザ」は1000人収容のホールと最大180人収容の会議室7室を備えて、企業研修もできる。

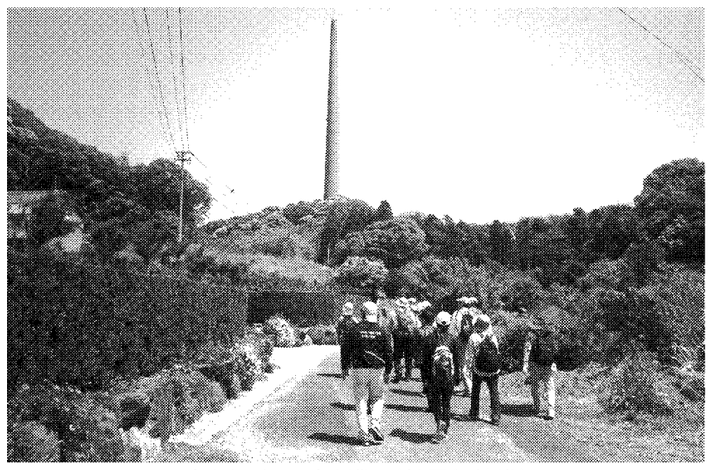
「ホテルヨーロッパ」の宴会場レンブラントホールは最大収容人員500人で、懇親会・パーティーに最適だ。

隣接する「ウインズ佐世保」も最大180人収容のスクリーンを持ち、コンベンション会場として利用可能。加えて「ホテルオークラJRハウステンボス」は、最大800人までの規模に応じた宴会場がある。このほか西海国立公園に隣接した「九十九島観光ホテル」は最大1000人に対応。市内各地にある市営や民営の大小施設も、多様なニーズに応えてくれる。

佐世保市中心部へのアクセスは長崎空港からバスで約90分、乗り合いジャンボタクシーなら約55分の距離にある。長崎空港へは東京、名古屋、大阪などから各社の直行便が飛ぶほか、福岡からはJRや高速バスなどが運行している。

宿泊施設では佐世保市街地に約3000人、ハウステンボスなどに約4000人が宿泊する容量がある。また来賓をもてなす高級ホテルから、手軽な料金のビジネスホテルまで幅広くそろう。

自然と文化を満喫 SASEBO時旅


歩きながら歴史を巡る（針尾無線塔）

遠方から会議やイベントに訪れた参加者にとって、会議後や空いた時間に行う観光も大きな楽しみの一つ。その点でも佐世保には独特の文化や自然が豊富にある。初めての人だけでなく、何度訪れた人にも新たな発見を提供してくれる。

佐世保の魅力を手軽に、また深く満喫できるのが佐世保観光コンベンション協会による「SASEBO時旅（ときたび）」だ。通年で行われる定番コースをはじめ、季節ごとのプログラムやツアーが組まれている。1時間の短いツアーから1日かけて回るものまで、興味や時間に合わせて多くのツアーから選ぶことができる。米軍施設や歴史的建造物など、普段は入ることができない場所を見学できるのも特徴だ。

なかでも冬にかけての目玉は「針尾無線塔」を訪れるツアー。真珠湾攻撃の電信を発したとされる高さ136メートル、根元の直径12メートルの巨大なコンクリート製の塔で、一辺300メートルの正三角形を描いて3本が並び立つ。12月2日と16日に開催される同ツアーは、ガイドの解説付きで見学するウオーキングのプラン。敷地内へは通常入れないが、塔のそばまで近づけるまたとないプランだ。

佐世保の自然といえば島の密度日本一を誇る「九十九島」だ。西海国立公園の中にあり、佐世保港外から約25キロメートルの海域に208の島々が連なる。その島の一つ、黒島の教会を訪れるのが12月16日実施の「建築士と訪ねる黒島天主堂」ツアー。長崎県の教会建築の基礎となり、世界遺産暫定リストにも載っている貴重な建築物だ。島文化とともにキリシタン文化の一端に触れられる。

また島の緑が海や空の青に映える絶景は、市内各地の展望台から眺められる。島を縫うように航行する遊覧船から見る夕景も美しい。

佐世保の伝統文化を知るなら、世界的評価が高い磁器「三川内（みかわち）焼」についてのプランも興味深い。陶工によるガイドで窯元を巡ったり、秘蔵品を観覧できるツアーや実際に作陶できるものなどさまざまなコースがある。

宿泊者数に応じた補助

パーティーを盛り上げる龍踊り

佐世保観光コンベンション協会ではコンベンション主催者に対して開催助成金を交付している。延べ宿泊者数に応じて交付額が決まり、100人以上が対象になる。例えば500人以上1000人未満なら50万円、1000人以上1500人未満なら100万円が支給される。3000人以上なら交付額は300万円だ。

さらに同協会は西海国立公園内で行うディナーパーティーで、歓迎アトラクションの太鼓演奏や、長崎伝統の「龍（じゃ）踊り」体験などのメニューを用意している。また魚を漁船から自身で運んで活け造りで楽しむことも可能。各地からの来客に、佐世保ならではの体験でもてなしたいという主催者の相談に応じてくれる。

延べ宿泊者数	100人以上 ― 200人未満	10万円
	200人以上 ― 300人未満	20万円
	300人以上 ― 500人未満	30万円
	500人以上 ― 1000人未満	50万円
	1000人以上 ― 1500人未満	100万円
	1500人以上 ― 2000人未満	150万円
	2000人以上 ― 3000人未満	200万円
	3000人以上	300万円

コンベンション開催助成金交付例

異国情緒にグルメ

街中に音楽があふれる（ジャズバー）

歩くだけで楽しいのが佐世保の街。戦後に米海軍が駐留したため、米国文化の影響を色濃く受けている。なかでも10月7日までは市内に音楽があふれる「佐世保JAZZ」を開催。アルカスSASEBOでの日野皓正氏ら有名アーティストのライブのほか、街角やライブハウスなど街中がジャズ一色に染まる。

普段でも市内中心部に点在するジャズバーや外国人バーでは、異国情緒たっぷりの佐世保の夜に浸ることができる。週末や祝前日の夜に催行される時旅の「ナイトツアー」はガイドつきで安心だ。一方で昭和の面影を残す街並みや日本一元気と言われる商店街など、街歩きの楽しみに事欠かない。

食事においても、ボリュームたっぷりの佐世保バーガー以外においしい料理がたくさん。熱い鉄板で焼かれた薄切り牛肉を、レモン風味のしょうゆベースソースで食べる「レモンステーキ」は佐世保の名物料理。また日本海軍由来のビーフシチューやぜんざいも独特。冬場は九十九島で育ったカキが食べごろになるなど、一度では食べ尽くせない。

加えて中世ヨーロッパの街並みを再現したテーマパーク「ハウステンボス」はアジアからの来日者に人気。市内各地にはゴルフ場もある。佐世保はビジネスだけでなく観光の部分でも、来街者の多くの要望を満たしてくれる。港街らしく、訪れる人をいつも温かく迎え入れる準備ができている。